

親鸞聖人 御絵伝

第四軸

第六図



第五図

第四図

第三図

第二図

(左)

第一図

(右)

第六図 「廟堂創立」(びょうどうそうりつ)

文永九年の冬、建立になった大谷本廟の様子が描かれています。

第五図 「洛陽遷化」(らくようせんげ)

親鸞聖人の御遺骸を延仁寺で荼毘している情景が描かれています。

第四図 「洛陽遷化」(らくようせんげ)

親鸞聖人の御往生と御葬送の情景が描かれています。

向かって右下の右側は善法院でご病気中の親鸞聖人、右上は親鸞聖人の御往生の様子。

左半分は親鸞聖人の御遺骸を輿(こし)に納め、延仁寺の荼毘所に送ろうとしているところが描かれています。

* 善法院は、親鸞聖人の実弟、尋有(じんう)僧都のお寺です。

第三図 「熊野霊告」(くまのれいこく)

熊野権現に参詣した平太郎が、社殿でうたた寝している中で霊夢を感得しているところが描かれています。

第二図 「熊野霊告」(くまのれいこく)

仁治元年2月、京都五条西洞院の御坊に親鸞聖人が住んでいた頃、大部の平太郎が熊野権現参詣の途中に立ち寄り、教えを受けているところが描かれています。(左半分)

第一図「箱根霊告」(はこねれいこく)

親鸞聖人が箱根権現の翁の響応(きょうおう)を受けられるところが描かれています。

(右半分)

響応：ごちそうする。

酒食を用意して人をもてなす

重誓寺 所蔵
親鸞聖人御絵伝

寛政11(1799)年10月28日
本願寺19代ご門主本如上人より下附されたものです。

